

沢穴説明

白蓮洞から南東に登ること150mの所に位置する沢穴は、名前通りに沢の延長であって、簡単に説明すると井戸のようである。洞口は、泥と流木で湿っぽく上部の岩は稜の様に鋭く、今にもくずれそむな様相を呈している。

ドリーネのふちから10~15m下った所に右にジップエルをかけ20mの梯子をかける。少し木が岩をつたわっている。

第1テラスは、流木と石で岩がくずれてできたりしい。

第2テラスは、第1テラスから35mの所でやはりニコも第1テラスとよく似ている。これといって変わった所もなく、少し水の量が増した程度である。最深部まではあと30mである。最深部は小さなプールとビバークできそうな平らな所がある。ここから横につづいていると思われたが残念ながら行き止りである。

リンドウ窟及び橋洞説明

洞口は白蓮洞の西8mの所にあり、横に長く割3.7m高さ1mとになっている。洞口から穴は45°の角度で7m落ちており、テラスとなっている。テラスの割は4.5mとになっている。

テラスからは垂直に6m落ちておりホールとなっている。ホールの中央部には大きな落盤がある。テラス及びホール付近は、粘性の高い土と礫でおおわれており、落盤のまわりには流木がある。ホールからは洞口と同じ方向に40°の角度で5m落ちており、そこで洞はつまっている。またホールから洞口と反対方向には別の洞が続いており10°の角度で10m上がると別の洞口に出る。洞口のすぐ左側には割1m高さ0.5mの大きさで続いている横穴があり、同じ大きさで横穴は続いており16m行くと入洞不能になっている。しかし、横穴からは冷気が吹き上げており横穴は続いている可能性がある。

滝谷内説明

この度、滝谷内を再三踏査して見たわけであるが、その概略はまず滝谷の本谷であるが沢らしい沢というのはこのマイコニ平では、これのみであり、他の所では沢をつくるまでに岩が石灰岩のため地下へ水が伏流してしまい大きな沢はほかにない。

この本谷は、上流は流紋岩のため水量は少しあり、小さな滝の連続になっている。そして谷は大穴の方向へと行き、数mの横穴より大穴のドリーネへと続いている。大穴近くになるとすでにもう水は伏流してしまっている。この本谷の水は地形を見ると、どうも大穴をしてそれに続く千里洞の方へ行っている様だ。通り穴より大穴へとウバーレの谷が続いているが、そこよりウバーレは大きく右へ曲り滝谷の南の尾根を大きくそのウバーレが切っている。

大穴より南へ続くウバーレの東の尾根を登っていくと、左手に石けり洞がある。この本谷の南の尾根の北側というのは、もうドリーネのみで成り立っていて尾根らしきものも、谷らしきものも、すべてドリーネの連続である。ここを歩けば、あながち伝説の8008釜というのもうそでないと思う。まあこの度の踏査で、潜れる所は石けり洞と少し東に行った所にある春見つけた穴、そして西の方にあるドリーネが3つ続いている所の堅い木洞それに昼飯を食った昼飯洞(いずれも仮名)と計4つの穴はいずれもザイルのみで入洞してはみたがいずれも梯子を使わなければ潜れなかった。水文学的に見て

は小さく、いずれもあまり深度は期待できないが、伏流水が地下の洞窟ごどのようなにつながっているかによって穴の深さも決まってくるが、いずれも今後の調査待ちである。大いに楽しみな事である。